



SASEBO スイーツフェスティバルが初開催

10月13日、14日、県北地域の菓子・パン業者22店舗が一堂に会した「SASEBO スイーツフェスティバル2018」が西部ガスショールームで初開催され、多くの人でにぎわいました。18品がエントリーした新作スイーツ総選挙では「世知原茶ショコラ」(ハウステンボス)がグランプリに輝き、「柚子衣」(草加家)と「米粉とお茶のにゃんこぼん」(sweets&school えがお)が和菓子部門、パン部門の1位に選ばれました。イベントは開場前から入場を待つ人の長い列ができ、お菓子教室は受付開始10分で予約完売になるなど大盛況で、当初予定を大きく上回る約5,000人が来場しました。

袁文英氏を佐世保観光名誉大使に

10月31日、本市と佐世保観光コンベンション協会は香港の旅行会社EGL tours社長の袁文英氏を佐世保観光名誉大使に委嘱しました。同社は香港を代表する旅行会社で、日本への送客実績が非常に高く、本市にも多くの観光客を送っていただいています。昨年11月に朝長市長が香港を訪問した際には地元新聞社に大々的な歓迎記事と佐世保のPR広告を掲載していただきました。委嘱式で朝長市長は「来年1月には香港と長崎を結ぶ航空便が就航される予定であり、お力添えをよろしくお願いします」と期待を込めてあいさつしました。



中国廈門市から表敬訪問に

10月31日、中国廈門市との友好都市締結35周年を記念し、さらなる友好関係の促進と協力強化を図るため、廈門市代表团(中国共産党廈門市委員会副書記・陳秋雄団長など5人)が市役所を訪問されました。朝長市長は本市から廈門市に訪問団(7月31日～8月3日、総勢80人)を派遣した際の温かい対応に改めてお礼を述べたほか、本年8月に締結した広田中学校と廈門外国語学校との友好学校提携の取り組みについて改めて協力を要請しました。また、今回の訪問では両市間での「経済交流の推進に関する覚書」も締結しました。



IR 誘致を目指した決起大会が開催

10月4日、特定複合観光施設(IR)の本市誘致を目指す「九州・長崎 IR 推進決起大会」(県・佐世保市 IR 推進協議会や県商工会議所連合会など4団体が主催、九州経済連合会などが後援)がJA させぼホールで開催されました。大会には中村法道知事など関係者約340人が出席し、九州第一弾となる区域認定を目指すことなどを決議しました。朝長市長は地元市長としてあいさつし「県内だけでなく、オール九州として機運醸成や理解促進を図りたい」と述べました。

市内のバス運行体制一体化に関する基本合意書調印式

10月4日、本市と西肥自動車は市内のバス運行体制一体化に向けた基本合意書の調印式を市役所で行いました。来年3月24日から予定されている新体制では、市営バスの全路線が西肥自動車に移行し、させぼバスが西肥自動車から一部の路線を受託して運行することになります。朝長市長は「市が継続してリーダーシップを取りながら今後も持続可能なバス路線の維持に向けて取り組みを進めたい」とあいさつしました。



佐世保西高 ふるさと創生大作戦 in 佐世保市役所



10月10日、県立佐世保西高等学校の2年生40人が市役所を訪れ、1年間研究してきたふるさと佐世保の活性化に関するプレゼンテーションを行いました。この日は学年全体で36班のうち選抜された6班が「俵ヶ浦半島ブルーツーリズム大作戦」「佐世保の自然を満喫! フィッシングツアー」など、佐世保の強みを生かした活性化策を提案しました。地元愛あふれる高校生の熱意に触れた朝長市長は「こうした取り組み自体が素晴らしい。提案内容もよく考えられていてまちづくりの参考にしたい」と笑顔で話しました。

国際交流大運動会



10月27日、「第2回国際交流大運動会」が旧戸尾小学校体育館で開催され、外国人約30人、日本人約70人が綱引きや二人三脚などの競技を体験しました。昨年度から本市と市民が協力して取り組んでいる「英語で交わるまちSASEBOプロジェクト」のスポーツ交流チームが主催したイベントで、参加者は日本らしい競技を楽しみながら友好を深めました。同プロジェクトでは、これまでに文化交流を目的とした「Sasebo Expo」の開催やフェイスブック「Sasebo E Channel」の運営などの取り組みを行っています。本市では今後とも「英語が話せるまち佐世保」の実現を目指し、さまざまな催しを行ってまいりますので、市民の皆さんのご参加をよろしくお願いいたします。

「Sasebo E Channel」サイトを
画像を読み取ってご覧ください



佐世保くんち



11月3日、亀山八幡宮の秋の大祭「佐世保くんち」が開催され、さまざまな奉納踊りがお旅所の松浦公園で披露されました。この日は青空が広がる晴天の下、多くの観客が集まった中で、六ヶ町(天満・木場田・相生・谷郷・高砂・浜田町)による稚児行列や和太鼓の演奏、剣舞などが奉納されました。最後には爆竹や威勢の良い掛け声とともに「させぼ三ヶ町蛇踊り」の大蛇が登場。赤い子どもの大蛇と青い大人の大蛇が太鼓やドラの音が鳴り響く中、勇壮な蛇踊りを披露すると、観客から「モッテコーイ、モッテコーイ」の声が何度も掛けられました。奉納踊りが披露された後、ご神体を乗せた三基のみこしが亀山八幡宮に戻る「お上り」が行われ、ことしの「佐世保くんち」は幕を閉じました。

佐世保市名誉市民 下村脩博士
御冥福を心よりお祈り申し上げます

本日の報道において、佐世保市名誉市民であり、2008年にノーベル化学賞を受賞された下村脩博士の御訃報に接し、深い悲しみを禁じえません。ここに、佐世保市と佐世保市民を代表しまして、謹んで哀悼の意を表します。下村脩博士は聖心幼稚園、白南風小学校、旧制佐世保中学校と学童期を佐世保市で過ごされ、本市とはとてもゆかりの深い方であります。

オワンクラゲの研究を通じた緑色蛍光タンパク質の発見という快挙を成し遂げられ、2008年にノーベル化学



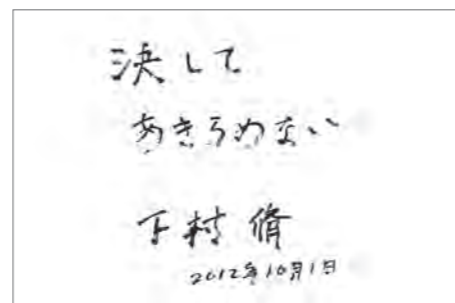
「名誉市民顕彰式」に出席した下村博士
(平成21年3月21日)

賞を受賞された時には、佐世保市中が大きな喜びに包まれました。また、翌2009年には佐世保市の名誉市民になっていただくという栄を賜りました。

本市の教育にも熱心に関わっていた。また、本市教育委員会主催「下村脩ジュニア科学賞 SASEBO」コンクールにおいて、表彰式や下村賞受賞児童生徒との面会など、何度も佐世保に足を運んでいただきました。私も2016年にお目にかかりましたが、その時の子どもを見つめる温かいお顔と科学を語る熱い眼差しは、今も記憶に鮮やかに残っております。

博士の御逝去は、佐世保市はもとより、日本および国際社会にとっても大きな損失であり、深い悲しみであります。下村脩博士の多大なる御功績をしのびつつ、御家族の皆様の悲しみが一日も早く癒える日を願いながら、御冥福を心よりお祈り申し上げます。

平成30年10月21日
佐世保市長 朝長 則男



(左)「第1回下村脩ジュニア科学賞 SASEBO 表彰式」(平成21年10月19日)で受賞者と握手する下村博士。「成せば成る。どんなことでもあきらめずに一生懸命やり遂げることが大切」とあいさつし、未来の科学者たちを激励しました(右上)「九十九島水族館海きらら」のクラゲ研究室を見学する下村博士(右下)海きららに展示してある下村博士直筆「決してあきらめない」の書



※本文は10月21日に発表した市長コメントの原文を掲載しています。